

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史) (主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第172回哲学カフェ例会(2022.10.13)

《信教の自由と政治的利用の問題を考える》

「旧統一教会(協会)への関心は、参加者自身の個人的体験も重なって大変高いものでした。もちろんこの問題は個人的問題ではなく、政権政党との深い癒着という、日本の政治・社会の暗部でうごめく大問題であることがはっきりしましたね。」

<話題提供> 主宰者:吉田千秋



・今日はいま大きな問題となっている自民党と旧統一教会との深い関わりを念頭に置いて、政治と宗教の関わりの問題を取り上げます。日本国憲法は個人の権利として信教の自由を保障する一方で、国や行政機関が特定の宗教に関与することを禁じています。これはかつて、国家権力が国家神道を通じて天皇及び国家に対する国民の忠誠を培い、国民を戦争に駆り立てた歴史への反省に基づいて、憲法で明文化された戦後民主主義における重要な政治原則です。

・しかし、この原則が国政を担う政治家によってないがしろにされている実態が明らかになりました。きっかけは安倍元首相が選挙の応援演説中に殺害されるという衝撃的な事件でした。犯人の発行動機が報じられ、事件の背景に旧統一教会信者の法外な献金による家庭崩壊が

あり、この報復で安倍氏殺害に至ったことが明らかになりました。その行為は許せませんが、国民の怒りは詐欺紛いの方法で信者からお金を搾り取る旧統一教会と、この組織と密接な関わりを持ち、選挙等で支援を受ける政権党の自民党に批判の目を向けるようになったのです。

・本来、宗教は個人の心の問題で、信教の自由は尊重されるべきであり、政治と宗教の関係は様々な視点から慎重に議論される必要があります。だが、旧統一教会(世界平和統一家庭連合)と政治の問題を考えることは、信教の自由や政教分離を基本原則として議論されるべき問題ではありません。というのも、旧統一教会は普通の宗教集団というより、宗教を語って人々の思考を麻痺させ、お金を巻き上げたり、選挙行動に影響を与えたりする組織ですから。

・そもそもなぜ人は宗教を求めるのでしょうか。宗教はしばしば正しい認識を追求する科学と対立するものとみなされます。科学は様々な自然現象の因果関係に関する客観的認識で、厳格なルールに基づいた検証の努力によって可能となる真理の追究とみなします。それに対して宗教は、人の力や自然の力を越えた存在として神とか、仏とか、精霊と呼び、それを信じて敬う礼拝の営みが宗教と呼ばれるものです。この信仰自体は尊重されるべきものです。

・だが、宗教団体が勢力拡大のために政治の舞台に躍り出て問題になったことは戦後②もあります。公明党を通じて創価学会が自分たちの教えを国家の宗教とする目的(国立戒壇)を持っていることが問題となった例や、オウム真理教が国政に乗り出そうと試みて失敗し、テロ活動を行って法人が取り消されたのは周知のことです。

・今回問題になっている旧統一教会(正式名称は「世界基督教統一神霊協会」)も、その法外な献金厚め、悪徳

商法、「原理研究会」による学生生活の破壊などずいぶん前から問題視されていたのに、政権政党の自民党によって庇護されてきました。2015年には名称変更を認めない従来の方針が変更され、「世界平和統一家庭連合」として存続の措置も強行されました。とんでもないことです。

・ボク個人は宗教心の薄い家庭環境に育ったため、信仰と呼べるものを持っていませんが、多くの宗教者の方と平和活動などを通じて親交があり、尊敬の念も持っています。問題なのは宗教を語るカルト集団に対する対応、

及び政治と宗教の不適切な関係です。国政を担う大臣が靖国神社を参拝することも憲法の規定に照らして大きな問題です。

・その他に、少し性格を異にしますが、女性差別の宗教慣習や、輸血を拒む教義や、幼年の洗礼など、議論する必要があるかもしれません。だが宗教との関わりは人それぞれ異なるものでしょう。今日は、それぞれの個人的な宗教観も交えて、宗教と政治の関わりについて自由に意見交換が出来ればと思います。

<意見交流>



* 自分は統一教会のメンバーとなって集団結婚に参加し大きな話題となったアイドル歌手の桜田淳子と同世代。旧統一教会は原理研と称して、70年代の後半から80年代に掛けて全国の大学で活発に会員集めをしていた。学生時代、個人的に統一教会のメンバーである女子大生を知る機会もあった。安倍氏殺害の後、メディアがこぞって統一教会と自民党の関わりをかなり強く批判的に報じていてあらためて驚いている。

* 統一教会は岐阜でも活発に活動していた。統一教会に興味を持って、その集会に参加したが気持ちが悪く感じて、メンバーにならなかった岐大の女子学生を知っている。私は個人的に宗教そのものにアレルギーがあって深入り出来ない。かつて父親がキリスト教に興味を抱いて、信者になろうとしたが、洗礼の儀式に抵抗があって断念した。ただ父親は今も熱心に聖書などを読んでいる。

* 穢れを洗うと称して信者から多額の献金を集めて、新興宗教の幹部たちの多くは贅沢に暮らしている。信仰は心の救済であるはずなのに、救いが金絡みであることに疑いを持つ必要がある。多くの人がどうしてのめり込むのか分からない。

* 金絡みは疑わしいが、宗教そのものは否定すべきでない。子どもが治療の難しい病気を患えば、親は不合理と分かっているのに、占いや、お祓いに頼りたくなる。宗教は最後の心の拠り所の役割を果たしている。

* 科学的合理性に適合しないものを無理矢理排除する必要はない。不合理な願望は元々人間の心性に根差したものである。宗教は願望から生まれたもので、それを否定することは心理学的に見て有害でさえある。建設現場では必ず神主を呼んでお払いが行われる。ビルの屋上には小さなお宮さんがある。

* (吉田) 私たちが知っているキリスト教、仏教、イスラム教の様に、創始者がいて、明確な教義を持つ宗教は、専門用語を使うなら、創唱宗教と呼ばれるものである。日本人の大半は、創唱宗教の教義から全く疎遠になっているから「無宗教」者が多いと言われている。しかし、日本人の生活の中には余り意識されない宗教的なものが多様に受け継がれ残っているし、心に深く根差した宗教的な意識が消えた訳ではない。

* 神の様な超越の存在を否定する無神論も或る種の宗教ではないか。神の存在することを信じるのが一般の宗教で、神の不在を信じるのが無神論。無神論も信じる



ということにおいて、一般の宗教と共通するものを持っている。マックス・ウェーバーが、資本主義社会の発展の前提として、プロテスタントの ethos (道徳感情、倫理的態度) があったことを指摘している様に、社会の発展をもたらす人間の行動の背景に、合理化できない感情の様なものがある。科学の進歩の背後にも、人間の信念の様な感情と区別できない主観的要素がある。

* 統一教会は、不幸な経験をした人たちの恐れに付け込んで、マインドコントロールを行い、自民党の政治を支持する様に信者を促して来た。引きこもりの様に、社会生活に不安を抱く者たちは、心理的に新興宗教に取り込まれ易い。多くの日本人が信仰の様な気持で、学校を信じている。しかしそういう「学校信仰」の強い者ほど、不登校になりがちである。

* 岐阜県でも統一教会は政治に大きな影響力を持っている。古田知事は統一教会系の団体の会合に度々出席していた。前回の保守分裂選挙で当選できたのも、統一教会の支持を得ていた分、対立候補に差を付けることができた。家庭教育支援条例も、名称から判断して統一教会の意向を反映したものであると言える。

* いろいろ聞いていると、2014年国会に提出された“家庭支援法案”も統一教会の考えを色濃く反映している様に思えてならない。

* 岸田内閣は発足当初より“子供庁”の設立を政権の重要課題と謳っていた。この新しい役所の名称が最終的に“子供庁”でなく“子供家庭庁”となったことに、多くの人が統一教会の働きかけがあったのではと疑いを持っている。

* (オンライン参加の男性) 宗教に対して様々な否定的意見が聞かれた。自分は宗教に帰依している者として意見を述べたい。自分は宗教に関わって、救いと苦しみの両方を経験した。宗教的集団に属さない人は皆内部の事情を知らないで情報をテレビなどのメディアに頼っていて、統一教会のこともあって、宗教集団全体に疑い

の目を向けるようになっている。報道は事実と異なる部分も少なくないと思われる。自分は不登校の経験から信者になった。人はほとんど別の人間の悩みや苦しみを理解できない。多くの人は宗教を理解していない。

* 問題提起の中で科学と宗教の本質的な違いの説明があった。宗教の本性は信じることである。考えるのではなく、信じることが求められる。信じるということは、ある意味で思考を停止させることである。科学は単なる憶測や勝手な思い込みを拒否し、徹底的に疑い、確かな裏付けの無い意見を排除する。これは心のエネルギーを消耗する苦しいプロセスである。それに対して、ただ無条件に信じることは、悪い事ではないが、自分が見る所、負担の少ない楽なプロセスである。人間は疑うことで初めて進歩を遂げることができる。

* 統一教会は明らかに平穏な市民生活を脅かす反社会的な集団である。安倍氏の事件の後、教団の代表者が何度も記者会見を開いて反省の弁を口にしていたが、信者を親に持つ2世の記者会見の最中、中止を求めるメールを送り付ける横やりを入れるなど、反省とは反対のことをして、改めて反社会性を示していた。

* 安倍氏が退陣した後、支援者によって安倍氏を励ますハイキングという催しが開催された。この会にも統一教会のメンバーが参加していたらしい。自分は桜田淳子や山崎浩子が集団結婚式に参加することがメディアで報じられて、初めて統一教会の存在を知った。

* 昔、宗教に心の安らぎを求めたことがある。エホバの証人の信者から「永遠の命」や「ノアの箱舟」の話聞いた。熱心に家庭訪問を受けて勉強会にも参加した。三重県にある“ヤマギシ会”という、皆で農耕、牧畜を営み、所有の概念を否定して、「無所有一体」を信条とする生活共同体にも参加した。心の拠り所を求める気持ちからいろいろ試みたが、なじみずに離脱した。疑わしい宗教団体もあるが、教団に属する人たちは互いに助け合ったりして、社会的に有益な活動をしている場合もある。

* 先程、科学にとって大事なことは疑うことだという意見があった。自分は社会科学に関わっているが、社会科学の目的は社会の発展に貢献することだと思う。宗教を語って社会を間違った方向に導こうとしている統一教会の存在に強い懸念を覚える。こうした団体の政治利用する試みには疑問を禁じえない。宗教そのものには魅力を感じるし、宗教文化を理解したいとも思う。

* 自民党の政治家たちが、統一教会という問題のある疑似宗教団体から、選挙で支援を得るために、平気でそ

の広告塔になっていた事実には呆れるばかりである。安倍氏の国葬には全く納得できない。

* 統一教会に属する二人の女性から勧誘されたことがある。日本人を宗教に関心のある人と無い人との二種類に分類することができる。ただ全般に、大多数の日本人は日常生活において宗教的なものと関わるのが稀である。宗教的なものに関わる体験が無いために、宗教的な問いかけに免疫を持たない者が多い。だから宗教と無関係だった者が、突然、宗教にのめり込んだりして周りを驚かせる。

* 宗教に触れる機会が無いまま生きてきて気が付いた



ら無神論者になっていた。何時も、他人のために、子どものために役に立つことを第一に考えてきた。自分は宗教にのめり込む人をよく理解できない。

<意見交流の最後に>

吉田千秋



・様々な意見を聞くことが出来て、楽しい時間を過ごすことができました。信仰で救われたが苦しい思いもした、という考えさせられる話も聞きました。救いを求めるとは、思い悩むとはどういうことなのか。当事者の切実な思いは他人には分からないものかもしれません。不安、悩み、幻滅、失望、妬み、そうした様々な心の問題から、誰も自由でいることはできません。そんな時、たまたま廻り合った偽の宗教に取り込まれてしまうことがあるとしても、不思議なことではないでしょう。

・そういう状況に陥っても、自ら抜け出せる人もいます。他人とのつながりが重要です。一人の人間はそんなに強くありません。人間的なつながりが失われて、信じられるものがなくなってしまうと、心が不安定となって、偽りの言葉に欺かれ、間違っただ道を進んでしまうことがあったとしても、驚くことではありません。仮に、一旦そんな事態に陥っても、そこから抜け出せるなら、それ自身が価値ある経験ともなります。そうした経験することによって、初めて本当に価値のある確かなものを掴む事ができるのかもしれません

・私たちが気をつけなければならない事が幾つかあります。まずカルトに過ぎない偽宗教と本物の宗教をしっかりと分けることです。また政治が宗教に関与することを認めてはいけません。さらに、科学は様々な発展を遂げて人間に大きな価値をもたらしましたが、そのあまり「科学

信仰」に陥ってはなりません。きょう話にだされた「学校信仰」と同様に、科学や学校、それを担う(科)学者や先生は「偉い人」と思い込むのも間違いでしょう。

・人生や社会生活において、私たちは様々な価値判断を迫られます。以前は、親や教師が第一に価値観を伝える存在でした。今では、メディア、今日ではソーシャルメディアが様々な価値判断の媒体となって、人々に強い影響を与える様になっています。いま私たちが置かれている状況は以前よりもはるかに複雑になり、事実が正しく伝えられているかどうか怪しくなっています。ましてや与えられた価値判断が本当に価値あるものかどうかをみきわめることは容易ではありません。でもそれは人生を豊かにするためには必要不可欠です。お互い弱い者同士ですから、互いに支え合うつながりが不可欠だと思われれます。宗教にかかわる問題はまた改めて議論したいと思います。



月下美人 戦争報道をバックに

<10月例会感想、意見、便りなど>

○<反社会的活動を行う宗教団体の公認はどうか?>

宗教は悩める人を救うべき存在であるのに、信者になった人にその宗教の名において「先祖の祟りがある」と脅し、「それを解くために」と多額の金銭を宗教集団へ納めさせ、信者又は家族の生活を破壊してしまうことは真逆の行ないである。脅しをかけて金銭を集める反社会的活動が確定した民事裁判でもあきらかであり、文科省の公認宗教団体として継続するのはいかがかと思う。
(アダム・スミス)

○<宗教を活用する術をこそ…>

宗教の対岸にあるのが科学であると聞いて、とても納得ができた。即ち、宗教は非科学的な存在である。人間は弱い生き物であるから、逆境においては何かにすがらざるを得ず、宗教はなくてはならないものである。一方で、人間は生きていくために、科学を駆使して文明を切り開いていく大きな力も持ち合わせている。これまでの人類の発展がそれを裏付けている。

しかしながら、順風満帆な時ばかりではなく、道理や理屈だけではどうにもならない壁にぶつかることは誰にも避けることができず、そうした時に心の支えになるものが宗教であるべきだと思う。

戦う気力を失っている時に頼る対象となるべき宗教が、施しを行うことの見返りに金銭を求めるなどはもつてのほかであり、決して正当化されるものではない。人間は、現世を生き抜くために、こうした邪悪な宗教に利用されることなく、宗教をうまく活用していく術を身につけるべきである。
(ryosa)

○<フィリピンで見た宗教事情>

今回のカフェでは、宗教に関心を持たれた体験談や身近な友人・知人がカルト団体に取り込まれてしまった経験などが語られ、興味深い情報交換となった。そこで私もフィリピンで見聞した宗教状況を紹介したい。

この国の人々は日本に比べてかなり宗教色が濃い。どこの街でも教会が目立ち、スペイン統治時代の古いものもあるが新しいものも多い。日曜にはかなりの人々が教会に出かけ、都市部では冷房の効いたショッピングモールの一画に礼拝用の仮設ステージをしつらえてあった。若者たちの宗教論議も耳にしたが、おおらかなものだ。どここの教会で○○を買ったら金運が良くなったとか、あそこの教会の聖水は病気に効き目があるなどの話で、やはり現世利益が関心事だ。「日本では宗教を信じる人は少ないよ」と振ると、「人間は不完全



だし、将来は予測できないことが多いから、神に頼らないと…」などの反論が返ってきた。

また宗教のもたらすプラス面も垣間見えた。多くの宗派が貧民の救済や障がい者福祉を実践している結果、人々はボラティア活動への「腰」が軽く、協力的だ。また、宗教の結びつきが共同体的な慣習を維持する力になっている。例えば葬儀、各派の宗教形式で行われるが、貧しい庶民には費用が大変。そこで親戚や知人が毎夜ギャンブルを開いてお金が溜まったところで、それを使って式を執り行うという。勿論マイナス面もあるだろうが…。
(フィリピンウォッチャー)

○<自分自身を支える芯は欲しい…>

例会では宗教と正相反な物が科学で、科学的思考を重視することが重要だという意見が多いように感じました。私はその意見に対して疑問に思うことがあります。最近の対象になる事象が複雑すぎて実験を行って証明することが困難なため、科学的といわれる説明のほとんどが、観察と状況証拠による仮説にすぎません。ハーバード大学の医学部の卒業式で学部長は「あなた方に教えたことの半分は間違っている。不幸なことにそれがなんであるかは[現時点では]わからない」と語っています。医学でこうですから、経済学なんて屁理屈と教義の言い合いにすぎません。

唯物論者が支持する客観的実在なんてものにも私は否定的です。ただ自分自身をささえる芯が欲しいのは事実です。芯がなんであるのかは不明ですが、「迷わず行けよ、行けばわかるさ」(アントニオ猪木)、という気分で行動していきたいと思っています。
(たなか)

○<驚くべき旧統一教会の自民党への浸透…事前資料を読んで>

統一教会の政治への浸透の深さに驚いています。添付された内容は、大いに参考になります。しかし、問題

は、広がるばかりです。最近、統一教会の地方議会への浸透が報道されました。安倍が主張した「家庭教育重視」の教育方針に基づく条例が、統一協会側の自民党地方議員への浸透によって進められていると報じられていました。統一教会は、本気で日本の政治に影響を及ぼすことを考えているかもしれません。公明党における創価学会の政治活動マシーンの小型にも思えます。

統一教会と自民党は、「反共」と「封建的家庭主義」で大変親和性が高いとは思っていましたが、教育にまで影響を及ぼすに至っては、明らかな憲法問題です。当初、「子

ども庁」であったものが「子ども家庭庁」に改名されたのもおそらく協会がらみではないかと思っています。

両者は、互いを利用しているが、統一教会の主張や行動は、反日そのものです。日本会議など右翼の団体とも強い結びつきがあり、韓国や北朝鮮に対する理不尽ともいえる対応をとる自民党は、この矛盾をどう折り合いをつけているのでしょうか。「選挙にさえ勝てばよい」ということかもしれませんが、自民党議員は、良心や倫理の持ち合わせはないのでしょうか？ (S.Goto)

<この一冊> キリーロバ・ナージャ著『6か国転校生(ナージャの発見)』 集英社インターナショナル、2022年刊

6つの国、4つの言葉で学ぶとどうなるか？ ソ連(当時)に生まれ両親の転勤で世界6か国(ロシア、日本、イギリス、フランス、アメリカ、カナダ)の地元校で多様な教育を受けた著者ナージャが各国での体験と発見を紹介する一冊。

机の並べ方、筆記用具、テスト、ランチ、水泳の指導方法など世界の教室はこんなに違った。ただし、正解はないだろう。

なかでも興味深かったのは「水泳の教え方や目標など」が国によって異なる部分。アメリカではまず水にずっと浮いたり、潜ったり、長く泳ぐことが大事だとされる。日本ではフォームが重要だとされ、またビート板で基礎

を身につけさせる特徴がある。

私自身も3小学校と、2中学の転校生なので共感しながら読んだ。特に「転校するたびに<ふつう>が変わること」にまったく同感で、今まで<ふつう>だと思っていたことが急に通用しなくなる点などを思い出しながら読みました。

(井口篤郎)



<この一冊> 養老孟司著 『子どもが心配 人として大事な三つの力』 PHP新書、2022年刊

本書は、養老孟司氏が子どもの現在を憂える立場から4人の識者と語り合った教育論である。幼少時に十分に認知機能を育てることができなかった子どもについて論じた『ケーキが切れない非行少年たち』の著者・宮口幸治氏、小児神経医師の立場からデジタル化された時代だからこそ必要な実体験の重要視を提起する高橋孝雄氏、国産初の超電導MRI装置を開発するところから始まって、脳科学の立場から教育論へと対象を広げて幼少期における自然とのふれあいの重要性を論ずる小泉英明氏、子どもの自主性を尊重する「自由学園」の教育を受け、現在は自由学園の学園長を務める高橋和也氏。対する養老氏も解剖学者の立場から現在の人間を見つ

め、そのありように警告を発してきた人である。

この5人の識者が論ずる教育論が面白くないわけがない。5人が共通して憂慮するのは、人間として大事な力一本書ではこれを「認知機能」「共感する力」「自分の頭で考える人になる」の3つだとする一を育てる機会が現在の都市化さ



れた社会からは失われているということである。現在の知育重視の教育システムの中で、この3つを養うための取り組みが意識的に行なわれているとも思えない。さてどうする、養老先生が主張するのは昆虫採集であ

り、自然の中で遊ぶことである。子どもをせめて低学年の頃だけでも自然の中に解き放ってみたらいいかも、と思った次第である。(ウォーリー)

<この一冊> 久米島町史編纂委員会編

『久米島町史資料編1 久米島の戦争記録』

2021年再刊

8月NHKEテレで、「久米島の戦争」という番組が放送された。沖縄本島から東へ100km離れて戦闘がほとんどなかった久米島で、敗戦の日をまたいで20名の島民がスパイ容疑で日本軍の手で虐殺されたことを、島民の証言や研究者の言葉を構成して番組は伝えていた。



久米島の日本軍による住民虐殺(指揮した部隊長の名から「鹿山事件」)は、1972年に琉球新報・沖縄タイムズやサンデー毎日等で伝えられ、国会でも取り上げられている。恥ずかしい話だが、私は当時高3で沖縄については少し勉強もし、この事件も読んでいたはずだが忘れていた。

前置きが長くなったが番組で、島民の証言(虐殺を含む)をまとめたと紹介されたのが本書だ。全体は二部構成で、第一部は同時代の日記など記録類と、虐殺事件に関する新聞報道及び国会議事録、第二部は島民87名の証言と戦跡案内などからなっている。資料編のために事実関係などを順序立てて説明しているわけではないが、戦争当時の「生」記録は胸に迫る。

例えば、当時の警防団長は日誌に次のように記している。「昨日、友軍に北原住民九名殺害さる。」「仲村明勇本夕友軍に惨殺さる。(中略)家族共。」「昨夜朝鮮人谷川妻子共七名、スパイ容疑により友軍に惨殺さる。」

また証言でも多くの人が住民虐殺事件や日本軍の恐ろしさを語るなど、本書全体を通して、「久米島の戦争を必ず伝えねば」という島の人々の強い思いを感じた。

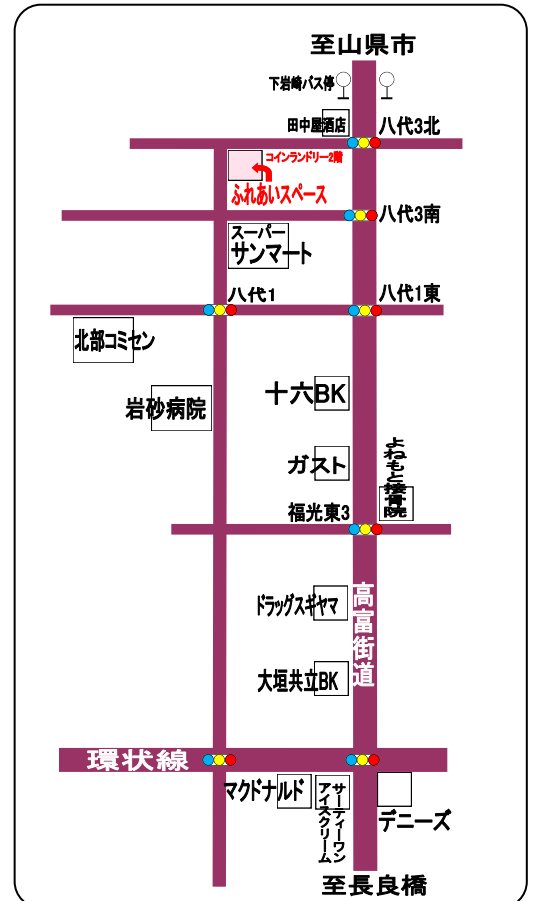
*購入は、久米島博物館(090-896-7181)まで問い合わせ願います。(井川敏郎)



月下美人 中秋の名月と

例会会場案内

例会への事前申し込みは不要です



哲学カフェ 第28期(2022年後半)例会予定 *毎月第2木曜日、午後7:00~9:00 ふれあいスペース
 ⇒ コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第171回例会 9月8日(木)	「いじめはなぜ起きるのか、どうしたらなくせるのか？」 *子どもの世界でも大人の世界でも様々ないじめが次々と起きている。 *なぜいじめは起きるのか。どうしたらいじめはなくせるのか。あらためて考え	終了 しました
第172回例会 10月13日(木)	「宗教の自由と政治的利用の問題を考える」 *旧統一教会(協会)と自民党などの関係で浮き彫りになった宗教と政治の危 *宗教活動も無制限ではなく、不法な反社会的活動は罰せられる。この点が重	終了 しました
第173回例会 11月10日(木)	「戦争危機と気候危機、どうつなげて打開するのか？」 *ウクライナ戦争が長期化する中で、気候危機の問題は忘れられたようである。 *でも「戦争は最大の環境破壊」でもある。あらためて二つを結びつけて考えてみたい。	
第174回例会 12月8日(木)	「危機の時代の2022年をふりかいて」 *あらたな戦争だけでなく、今年は21世紀に入って最大の危機の時代であったと思われま *いまだ先が見えない温暖化問題、永続化する感染症、何と言っても世界の分断、これらをしっ かり捉え直しましょう。	

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願いします。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願います。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



わいわいがやがや



アナカルト

★10月例会は、焦眉の問題となっている、旧統一教会(協会)と政党(特に政権党の自民党)との関係を取り上げた。一般的には、政党や個々の候補者の政治信条や政策が、宗教団体の教義内容や目標と一致している場合に、相互に協力するのは憲法上も何の問題も生じない。

★だが、洋の東西を問わず、昔から宗教団体は政治勢力(権力)の庇護によって拡大しようとし、政治勢力も宗教の力(権威)を利用して安定・強化をはかってきた。両者が丸ごと一体化した古代、中世ではもちろん、近代から現代においてもめずらしいことではない。

★それにしても権力と権威はどのようなものか。ひらたく言うと、権力とは種々の「暴力装置」をバックにして、「言うことを聞かせる原理」である。他方、「権威」とはそうした強制力は持たず、人々が何らかの力を持っている人やものに疑うこと

なく「言うことを聞いてしまう原理」である。

★前者の権力、特に政治権力(政府、指導者)はむき出しの暴力だけでなく、自らの権力を維持・強化するために、「偉い」学者や政治家などの様々な「権威」を利用する。その最たるものが宗教的権威であり、「教組」であり、その活動である。「権威」にひれ伏す人は逆らわないからそれを利用すればたいへん効果的なのである。

★ということで、「権力」が暴力を背景に行う怖さと、「権威」を利用する狡猾さをもっともっと知らなければならぬ。ボクらはいままでこの点で大いに甘かったのではないか。そのことを今回の自民党と旧統一教会の癒着が教えてくれたようだ。

★なお、「旧統一教会」という表記が多用されているが、この宗教団体と自民党との深い政治的つながりを示すためには、「旧統一協会」の方がよいと思う。というのも、この宗教団体の旧名は「世界基督教統一神霊協会」であり、「勝共連合」という政治部隊も抱えて共産主義撲滅を掲げ、自民党もこれを共有していたから。

(吉田千秋)